

◇今日の一日は誰かが生きてかった一日◇

このタイトルは、6月8日（水）全校朝会でお話しの一節です。



今回の全校朝会は、地域の方の講話として、尾野見ソフトボールスポーツ少年団の監督でもあり、みどり保育園園長の前田和彦氏を講師としてお招きしました。

幼い頃からよく知っている監督の話だったこともあり、子どもたちは緊張した面持ちで真剣に聞き



入っていました。前田さんは、幼い頃に親元から遠く離れた地で長期にわたり入院生活を経験され、大変寂しく辛い日々を過ごされました。そのときに、自分と同じ境遇で入院生活を送る自分よりも幼い子どもの面倒をみた経験が、保育士という職業に就きたいと強く願うきっかけになったのだそうです。病気だとわかったときは「なぜ、自分でなければいけないのか。」と悔しく思ったこともあったそうです。しかし、このような経験があったからこそ、必死に努力して保育士になる夢を叶えることができたのだと語られました。

また、退院してしばらく後、入院生活を共にし、仲のよかった友達が病気で亡くなった知らせを聞き、「今日という一日はあの子が生きたいと願った大切な一日なのだ。」と強く感じたそうです。「みんな



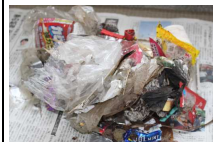
も苦手なものや嫌なことがあるかもしれないけど、かけがえない今日という一日を大切に生きてほしい。そして、今日という日を精一杯楽しんでほしい。」と締めくくられました。毎朝、お子さんを見送るときに「楽しんでおいでね。」と声をかけているという話に胸が熱くなりました。

◇ピカピカになったのは…◇

ある朝のことでした。一人の児童が、息せき切って「教頭先生、ちょっといいですか。」と職員室に飛び込んできました。何事があったのだろう？とその子の側に駆け寄ると、なにやら大きなビニール袋を持っています。その袋をズイッと私に差し出して、「これどこに捨てたらいいですか？」と尋ねました。「これはどうしたの？」と問うと、「学校に、ゴミを拾いながら来たんです」との返事。よくよく聞いてみると、毎朝登校する道の途中にたくさんのゴミが落ちていて気になっていたらしいのです。そこで、ある日、一緒に登校する友達に、ゴミを拾いながら登校することを持ちかけて行動に移したとのことでした。早速、子どもたちにインタビューをしてみると、「尾野見がきれいになってよかった。」「もっと、きれいになってほしい。」「きれいな尾野見にしたいから、あんまりゴミを捨て



てほしくない」とのことでした。インタビューを受けるどの子の顔も晴れ晴れとした笑顔に溢れていました。どうやら、ゴミを拾ってピカピカになったのは、通学路だけではないようです。



◇出席率91.6%！◇

6月11日（土）は土曜参観・学校保健委員会



・家庭教育学級開級式が行われました。

この日のために各学級で工夫を凝らした授業が行われ、多くの保護者の方の参観をいただきました。今後も感染症対策をしっかりと行い、子どもたちの生き生きと学ぶ姿をご覧いただける機会を多くもちたいと考えています。ぜひ、学校にお越しください。

